

症例報告

Biperidenの減量により不安が認められた精神分裂病の1例

小林 一 弘*

はじめに

本邦では抗精神病薬の投与に際して抗コリン剤が多用される傾向にある。しかし、抗コリン剤のもつ依存性、認知障害、遅発性ジスキネジアの発現などの問題を考慮すれば、可能な限りその減量や中止は試みられるべきであろう³⁾。しかし、同薬剤を急激に中断した際、悪心、嘔吐、発汗などの自律神経症状を中心としたコリン反跳 (cholinergic rebound) と総称される離脱症状群が出現する可能性を念頭におく必要がある。今回、精神分裂病の治療過程で比較的緩徐に抗コリン剤を減量したにもかかわらず、不安が惹起された症例を経験したので報告する。

1. 症 例

○24歳・女性・精神分裂病

既往歴及び家族歴：特記すべきことなし。

生活歴及び現病歴：発達に異常は認めない。高校入学後、勉学意欲がわかず、対人関係も希薄になった。22歳頃から、離人感、妄想気分が出現。次第に、幻聴、被害妄想、注察妄想も出現した。そのため、24歳、当院を受診し精神分裂病の診断で治療が開始された。Haloperidol 6mg、biperiden 6mg、levomepromazine 10mg、promethazine 25mg/日で寛解にいたった。その後、10日ごとに、biperidenを2mgずつ減量し、最終的には抜去した。錐体外路症状の出現はなかった。約1週間後の問診中、会話の合間に不安な感じがす

ると語られた。特に患者が苦痛とし、治療を求めたものではなかった。この訴えに着目し詳細に聴取したところ、不安感は「なんとなくおかしい」、「奇妙な不安感」と表現され、biperiden減量開始後数日から出現していたことが分かった。コリン反跳を疑い、biperiden 3mgを再投与したところ不安はすみやかに消失した。

2. 考 察

抗コリン剤、抗コリン作用の強い抗精神病剤、三環系抗うつ薬などの抗コリン作用を有する薬剤の急激な中断によりコリン反跳 (cholinergic rebound) と総称される離脱症状群が出現することが知られている。Luchins⁴⁾の展望では抗コリン作用の強い抗精神病剤や抗コリン剤の離脱では悪心、嘔吐、発汗、落ち着きのなさ、不眠などが出現することが文献的に確認された。また、Disaver²⁾らは三環系抗うつ薬において、その離脱症状を、①消化器症状、全身倦怠感、頭痛、不安焦燥、②入眠困難、熟眠障害、悪夢、③アカシジア、パーキンソン症状、④躁症状、⑤その他に分類し、Brooks¹⁾は睡眠障害や不安焦燥だけが出現する場合は軽症であると述べた。本症例が呈した離脱症状は抗コリン剤を緩徐に減量していた最中に出現したもので、重症度からみると軽症の部類に入る。しかし、その診断は決して容易ではない。前述したようにコリン反跳は抗コリン作用を有する薬剤の急激な中断で出現されると言われ、今回のような緩徐な減量中に出現した場合、治療者はその可能性を見落としがちになる。つまり、離脱症状の発現が軽

*岩屋病院 (豊橋市)

微であるため、患者自身が症状の存在を言語化しなかったり、言語化してもその表現が漠然としたものになりがちなためである。本症例も、患者は不安感を感じながらそれを表現できないでいた。また初めて口に出した時も、面接の途中に何げなく話されたもので、患者が治療者に対して積極的に治療を望んで訴えたものではなかった。しかし、治療者がこの発言に着目し詳細な質問をしたところ、biperiden減量開始後数日から「なんとなくおかしい」「奇妙な不安な感じ」が出現したことがわかった。この表現は妄想気分と類似する特徴が認められ、原疾患の増悪が疑われた。しかし、抗コリン剤の減量から数日で出現していることがコリン反跳を疑う理由となった。本症例では、抗コリン剤の再投与ですみやかに不安が消失した。またエピソード中不安以外の精神症状の変化が認められず、biperiden再投与後の経過観察でも普段との変化を認めなかったことからコリン反跳と診断を確定した。コリン反跳が抗コリン剤の緩徐な減量中に出現することは非常にまれと考えられ、錐

体外路症状の出現、原疾患の増悪との鑑別診断に留意し、綿密な状態観察を続ける必要があった。

3. まとめ

精神分裂病の治療過程で、抗コリン剤の減量を行ったところ不安が出現し、コリン反跳と考えられた。同剤の減量に際しては、比較的緩徐であってもコリン反跳の出現を念頭におく必要について述べた。また、離脱症状が明確でない可能性があり、錐体外路症状の出現や原疾患の増悪との鑑別に注意を要すると考えられた。

〔文 献〕

- 1) Brooks G.W. : Withdrawal from neuroleptic drugs. *Am. J. Psychiatry* 115:931-932,1959.
- 2) Dilsaver S.C. : Antidepressant withdrawal phenomena. *Biol. Psychiatry* 19:237-256,1984.
- 3) 今泉寿明 : Biperiden離脱により睡眠障害をみとめた双極性障害の1例. 11:277-280,1996.
- 4) Luchins DJ, Freed W.J, Wyatt R.J : The role of cholinergic supersensitivity in the medical symptoms associated with withdrawal of antipsychotic drugs. *Am. J. Psychiatry* 137:1395-1398,1980.